

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和六年三月句会(第一四二回)

兼題 「卒業」

開催日 令和六年三月二十三日

開催場所 生涯学習センター

出席者 七名

投句者・選句者 七名

(二点句)

ビルの窓桜並木を映し込み
道端に濃き野路菫リップ塗る
春疾風重き荷物に助けられ
目の中にさくら零れる万華鏡

小牧
寿歩
小牧
互酬

(一点句)

人生に卒業ありなし語る人
筒を手に正門ダッシュ卒業
気になる娘声かけきらず卒業す
親不孝詫びてわが道卒業す
卒業式弓手と馬手を差し出して
知らぬ子に挨拶されて梅の花

艸寛
寿歩
夢心
小牧
互酬
玄鳥

(六点句)

● 幼子の爪切る母や春うらら

互酬

選評：六点句と最高の選句結果となりました。無

理のない自然の光景に本当の春到来の暖かさを、
光景と心に刻み込んだ、優しい気持ちで十二分
に表現されています。力みのない俳句本来の長所
を存分に發揮した句といえます。できれば、こう
した句で人生を終えたいものです。

(艸寛記)

(五点句)

● 梅が香や古人とつながりぬ

寿歩

選評：正統派の俳句である。静謐な中に春の息吹
きを感じられる。「いにしえびと」という表現が効
果的であり、古代人に愛された梅が現代人にも変わ
らず愛され連綿と続く人の歩みを見つめているよう
である。

(小牧記)

(四点句)

● 餞の板書を胸に卒業す

玄鳥

選評：卒業の日に、お祝いや激励の気持ちを送
りて先生が金言・挨拶などの言葉を黒板に書いて
くれていた。生徒たちはその言葉を胸にして新し
い世界に旅立っていく。七十余年前の自分の姿を
思い出した。

(夢心記)

(三点句)

肩の荷をそつと下せば董かな

玄鳥

露の臺地蔵のごとく身構えし

艸寛

(投句)

珠洲の子等泣いて笑って卒業す
級友と歌い納めの卒業歌
白妙の山水あつめ春の湖
早春の花に囲まれインタビュ
大川に寝そべる天に春の風
穴場好き三越裏の阿亀桜
要所切処卒業の吾今八十路
卒業歌涙のうねり通りすぎ
地球人卒業したき濁世界
春の雪雨滴に変わり消えにけり
春の日を浴びてきらめく白マルチ
髪躍る夕東風奏で賑やかに
春寒に杏おさおさ芽を出しぬ

徹心
夢心
玄鳥
互酬
艸寛
小牧
徹心
寿歩
徹心
夢心
夢心
艸寛
徹心

『句会後記』

青木世話役の進行により高得点句(六点、五
点、四点)の自解と選者の選評、同人達からの
意見、見解の交換がなされた。次いで、その他
の出句全句について同様な事が行われた。句の
語順(上五、中七、下五)を変えた方が良いの
では、この語よりこの語の方がより良いのでは、
動詞ではなく連体詞は如何か、過去形より現在
形のほうが訴求力があるのでは等々活発に意見
が交換された。いつも乍ら知らなかった語句の
由来、故事来歴等も披露され、大変充実した濃
い時間の句会であり、二時間がアツという間に
経ったのでした。

(徹心記)